

令和7年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (1月30日実施)	総合評価 (2月27日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
1	学習指導 教育課程	(1) 単位制の利点をいかした年次進行情の教育課程に基づき、生徒一人ひとりの可能性を最大限に引き出す教育活動を展開する。 (2) 学習意欲を高め、自ら考え、表現する力を育む。 (3) 基礎的・基本的な知識・技能の習得とそれらを活用する力の育成を図る。	(1) 新しい教育課程の理念を踏まえ、授業の量的確保を前提とした「単位制の利点」との整合性を図る教科指導体制を実現する。 (2) ICT 機器や学習コンテンツ等を活用することで、生徒が主体的に学べる環境を構築するとともに、わかりやすい授業を実践する。 (3) 基礎的・基本的な知識・技術の習得を目指した「わかる授業」を展開するとともに、基礎学力の定着を図る教科指導の工夫を行う。	(1) 新しい教育課程の理念に基づき、主体的・意欲的姿勢で学習に取り組むことができる教育活動を展開する。 (2) 生徒の学習意欲を高め、「わかる授業」を実現するために、ICT機器やスタディサプリを活用し、組織的に実践研究を進める。 (3) 「よりわかる授業」「何ができるようになるかを明確化した授業」を追求するため、教員間の情報共有を密に行うとともに、組織的に授業を改善していく。また、スタディサプリを活用し、更なる基礎学力の定着を図る。	(1) ①教育課程編成のより良い改善ができたか。 (1)-②生徒一人ひとりにあった卒業に向けての単位修得への教育活動ができたか。 (2) 生徒の学習意欲を高めることができ、生徒による授業評価の項目4「授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができた」の肯定的回答の割合が90%以上になったか。 (3) 「できるよになった」と実感する生徒の割合が増え、生徒による授業評価の項目7「授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解することができた」の肯定的回答の割合が90%以上になったか。	(1) ①教育課程編成の見直しを検討することができた。 (1)-②生徒一人ひとりにあった卒業に向けての単位修得への教育活動について、単位制の特性を生かした取組により対応ができた。 (2) 7月実施の「生徒による授業評価」において、項目4の肯定的回答の割合は85.53%であった。(12月にも実施) (3) 7月実施の「生徒による授業評価」において、項目7の肯定的回答の割合は85.68%であった。(12月にも実施)	(1) ①教育課程編成の見直し後の実施に向けてより良い展開を検討していく。 (1)-②卒業に向けての単位修得は生徒一人ひとりに適した活動となるようにしていく。 (2) 現段階では目標値にわずかに届かない状況であるものの、高値であった。スタディサプリの活用状況等を分析するとともに、さらなる実践研究を推進していく。 (3) 現段階では目標値にわずかに届かない状況であるものの、高値であった。生徒が学習に対して達成感を得られるような工夫を組織的に考えていく。	<ul style="list-style-type: none"> • (1)については、単位制の利点を活かし、生徒個人に対する努力を期待する。 • (2)については、かなり成果が出ているようだが、さらなる実践研究を期待する。 • (3)については、意欲がわく、わかる授業の実践への努力を期待する。 • 生徒による授業評価は目標値に届かないにしても、先生方の尽力により、改善、向上した点は多々あると思う。基礎基本の学力の醸成に向け、引き続きご尽力いただきたい。 	(1) 教育課程編成についての見直しにおいて、単位制の利点を生かしたものとする。 (2) (3) 12月実施の「生徒による授業評価」において、項目4及び項目7の肯定的回答の割合はそれぞれ81.69%、80.70%であり、年間を通じて高値であったものの、目標達成には至らなかった。	(1) 教育課程編成について、令和9年度の開講科目の具体的検討に入る。 (2) (3) 本校の実態に即した組織的な授業改善の仕組みを構築し、その成果を全教員で共有することで、生徒が充実感を感じられるような授業づくりに取り組む。
2	生徒指導・支援	(1) 生徒の規範意識を育成し、社会や集団の一員であるという自覚を持たせる。 (2) 学校生活への積極的な参加を通し、豊かな人間性やコミュニケーション能力を育成する。 (3) 教育相談・支援体制の整備に努め、生徒一人ひとりの豊かな学校生活を支援する。	(1) 期待される行動を取ろうとしたり、マナーを守ろうとしたりする感性を醸成するとともに、他者を思いやり、違いを認める心や態度を育む。 (2)-①職員室の入退室の際のあいさつや服装、言葉遣いを正しくできるようにさせる。 (2)-②思春期学習会などを通して得た知識を日常生活に活かし、生徒との関係性を深められるようにする。	(1) 時間とルールを守ることを主眼に「授業規律」「生徒心得」等を守るよう、全職員で一丸となり、適切な声掛け指導や支援を行う。 (2) 教職員と生徒が学校内で互いにあいさつを行うようにし、豊かな人間性やコミュニケーション能力を向上させる。	(1) 「授業規律」等のルールが守れているか。他者を思いやる行動が取れているか。欠席数、遅刻数、指導件数は減っているか。 (2)-①職員室に入室する生徒へのあいさつや言葉遣いの指導の回数が減っているか。 (2)-②思春期学習会などで得られた知識や情報をいかし、コミュニケーションを密にすることができたか。	(1) 「授業規律」等のルールは守れるようになってきている。欠席数、遅刻数、指導件数について、昨年に比べ減少した。(12月末時点・昨年→本年) (欠席7137→6789) (遅刻9312→4488) (特別指導266→200) (2) 教職員と生徒が廊下等ですれ違う際にあいさつを行った。多くの生徒があいさつをするようになってきている。職員室への入室マナーについて、指導を行うことができた。	(1) 欠席数・遅刻数は減少している。繰り返し遅刻してしまう生徒に対して、引き続き丁寧な指導をしていく。 (2) 巡回や廊下ですれ違った際に教職員から生徒へ積極的に声かけを行うようにしていく。	<ul style="list-style-type: none"> • 全職員が一丸となって、丁寧に指導、支援することが大切。 • コミュニケーション能力を向上させるために、挨拶プラスちょっとした会話が大切。 • 遅刻数の激減は、丁寧な生徒支援の結果であると思う。特定の生徒の遅刻、欠席については簡単には改善しないと思うが、引き続き、根気強く指導していただきたい。 • 学校に同うと挨拶をしてくれる生徒が多く、指導ができていると感じる。社会に出た時にとても重要な要素なので、引き続き粘り強く指導してほしい。 • 「授業規律」を守れるようになってきているとのことだが、具体的な指導として何が奏功したのが気になる。 	(1) (2) 多くの生徒があいさつをできるようになった。日頃から多くの教職員が生徒に対してあいさつや声かけをしている成果が出ている。欠席・遅刻について引き続き丁寧に指導を行い、少しでも多くの生徒が生活習慣を整えられるようにしていく。「授業規律」については、毎時間の巡回指導に加えて、授業のルールを守らせるよう指導してきた成果が出ていると考える。	(1) (2) 生徒の指導・支援は、日頃から生徒とコミュニケーションをとることが大切になるので、今後は挨拶に加えてちょっとした会話をするようにしていく。生徒が生活習慣について考える機会を作り、自身の日常生活を振り返って、規則正しい生活ができるような支援方法を考えていく。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (1月30日実施)	総合評価(2月27日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	(1)生徒が自ら将来像を描き、主体的に生涯を生きる姿勢を育てる。 (2)生徒一人ひとりの可能性を伸ばし、多様な進路希望の実現を支援する。	(1)「総合的な探究の時間」の授業展開を通じて、変化する社会で生き抜く人材の育成を進め、進路指導へ反映させていく。 (2)自分の可能性を信じてチャレンジする力を育成するとともに、それを支える教員の進路指導力の向上を図る。	(1)「総合的な探究の時間」において、分野別説明会、ハローワークによる講演会等により自分自身の職業観を促す。 (2)進路希望調査、進路ガイダンス、講演会等を計画的に実施し、組織的な進路指導に取り組み、生徒の将来設計の立案を促す。	(1)スタディサブリテストや総合の時間を利用した様々な説明会、講演会を計画的に実施して、生徒の主体的な進路決定や職業観の確立等に積極的に取り組めたか。 (2)希望調査、ガイダンス、講演会等を計画的に実施し、組織的な進路支援を行うことで、進路先未定の生徒数を昨年度より減少させることができたか。	(1)スタディサブリテストを1・2年次2回、3年次1回実施した。また、総合的な探究の時間や放課後に、進路説明会を1・2年次は3回、3年次は進路向け説明会を4回、就職向け説明会を7回実施し、生徒に進路や職業観について考える場を提供することができた。 (2)-①昨年度の進路先未定生徒は9.4%であったが、今年度も組織的な進路支援により、順調に進路先が決定している(最終的な数値については3月に集計)。 (2)-②インターンシップを中心とする校外活動等の実施により進路に対する意識と学習意欲を向上できた。	(1)-①生徒が進路目標をしっかりと定められるように、年次に応じた進路行事を今後も計画的に実施していく。 (1)-②スタディサブリテストの結果を活用して、学習や進路指導をより充実させる取組を考えていく。 (2)今後も進路について考える機会を設け、生徒の特性を活かした目標設定や生徒が自主的に行動できるよう、きめ細かな指導を継続する。また、進路未定者の減少に努めるために、生徒との面談等を充実させていく。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体的に進路について考えることができるよう、引き続き場づくりをしていくことが必要。 自分の特性が把握できると、目標に向かう力が出てくるので、総合的な探究の時間等を有効的に活用していくことが大切。 スタディサブリテストがどのくらい進路決定に結びついているのか、検証の必要性を感じる。 生徒の進路希望と先生の進路指導との整合性(意見の相違)をどの位で妥協しているのか、また、卒業後の生徒の動向の把握ができていくのか(それとも卒業してしまえば終わりのか)気になる。 大学への進学率が上がっており、進路指導の取組の成果とも感じるが、その反面、進学就職準備の生徒が10%以上いるのは改善点である。 	(1)(2)総合的な探究の時間を活用し、進路説明会などを通して生徒の職業観の醸成を図り、進路に対する意識の向上が見られた。また、スタディサブリ導入により進路希望者の学習の習慣化も図ることができた。一方で、個々の特性を考慮した進路指導を含め、全ての生徒が明確な進路目標を持つための支援がさらに必要である。	(1)(2)今後も年次ごとの計画的な進路行事や外部テストの結果を進路指導に活用する。3年次を中心に就職・進学動向を把握し、定期的な説明会を実施し、生徒一人ひとりの特性に応じた進路指導を行うために全職員で共有し、進路支援にあたっていく。
4	地域等との協働	(1)家庭や地域との連携によりパートナーとして愛され、支持を得られる学校づくりを推進する。	(1)教育活動についての情報発信の充実を図り、家庭や地域により一層の理解と協力を求める。	(1)Web ページ、メール配信、公式 X 等を通し、教育活動の情報を発信(最低月1回は配信)し、家庭や地域に学校への理解を深めてもらう。	(1)適時に情報発信を月1回以上配信することができたか。	(1)日頃からタイミングよく情報発信を行うことが難しく、更新が遅れてしまうことがあった。	(1)更新作業に関わるルールやシステムを見直し、作業を円滑に進める工夫を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信、特にSNSの発信を定期的に行うのは、とても労力があること。無理のない範囲での計画や役割を分散することも必要。「教員が行うべき業務」として過度にならないようなバランスが難しい。 公民館の清掃等の協力、横内地区の夜間パトロールへの参加について感謝している。 地域施設や小中学校等との連携や交流もさらにできると良い。 	(1)Web ページだけでなく、公式 X 等を活用し、適時に情報を発信していくことを心掛けた。情報発信までの手順を見直し、簡略化することにより、より情報を発信しやすい環境を整えた。	(1)地域や本校への入学を検討する中学生に対して、本校の情報を積極的に発信していくための新たなシステム構築を行っていく。
5	学校管理 学校運営	(1)生徒が安全で、安心して、居心地の良い学校生活を送ることができる学校づくりに取り組む。 (2)一層の組織的な学校運営と業務の効率化を図る。 (3)教員のワークライフバランスを推進するために、働き方改革を推進する。	(1)古い学校設備を新調すると共に日々の清掃活動を充実させる。また、防災委員会を通して、非常時に向けた防災教育、防災活動に取り組む、生徒が心地よく安心して生活できる環境を確立する。 (2)-①一層の組織的な学校運営と業務の効率化を図る。 (2)-②組織的に職務を遂行し、生徒・保護者・教員が共に活動する。	(1)-①校舎内の物品整理を行うとともに、机・椅子・清掃用具等を点検し、必要に応じて新しいものに交換する。 (1)-②大掃除を縮小し、平日の清掃活動を拡充する。 (1)-③安全点検表の活用と必要に応じた危機管理マニュアルの修正を行う。 (1)-④市の防災対策課と連携した防災教育を行う。 (2)-①成績処理業務及び入学選抜業務を確実に遂行する。 (2)-②既存の学校行事等とPTA活動等を重ねたり、ICTを利用したりすることにより業務の効率化と生徒・保護者・教員の良好な関係性を目指す。	(1)-①物品整理と必要な環境整備を行うことができたか。 (1)-②平日の清掃活動日を増やすことができたか。 (1)-③適切に校内の安全点検と危機管理マニュアルの修正ができたか。 (1)-④全年次合同の避難訓練・防災教育を適切に実施することができたか。 (2)-①成績処理業務の改善ができたか。また、入学選抜業務の要項および研修会を充実したものにできたか。 (2)-②保護者や地域と連携する学校行事において新しい発想や企画をもって組織的に業務の効率化を図れたか。	(1)-①予算に応じて、机・椅子・掃除用具を適切に交換することができた。 (1)-②清掃マニュアルの作成と倉庫整理を行い、平日の清掃活動の拡充をすることができた。 (1)-③危機管理マニュアルに大きな変更は無かったが、危機管理体制の具体的な確認ができた。 (1)-④全年次合同の避難訓練・防災教育を適切に実施することができた。 (2)-①「チェックシート」、「確認票」をもとに成績処理業務を行うことが定着できた。また、入学選抜要項に基づいて複数回の研修を行い、業務を確実に遂行した。 (2)-②学校とPTAで連携し、学校行事において協働できた。またオンライン会議等のICT活用で業務の利便性向上と効率化することができた。	(1)-①体育館シートや東棟教室の椅子交換が必要であり、今後計画的に予算計上・購入していく。 (1)-②清掃個所数と清掃監督職員数のバランスが悪く、調整する必要がある。 (1)-③随時必要に応じて危機管理マニュアルの修正を行っている。 (1)-④災害時の放送設備とトイレ設備の確認を行う必要がある。 (2)-①成績処理業務を確実に遂行する。成績処理シートによる成績の確定方法について、さらに教科内の共通理解を深めていく。また、入学選抜業務を計画的に実施していくために、要項を一層充実したものにする。 (2)-②保護者等の参加数がまだ少ないことが課題である。今後もメール配信等を活用し協力・参加を呼びかける。	<ul style="list-style-type: none"> 災害時の設備については早急に確認を行う必要がある。市の防災対策課との防災教育および地域との連携を今以上に進めてほしい。 学校設備に関しては、すぐに対応するのは難しいと思うが、安全管理の他、学習意欲にも関わってくることで、体育館のシートが不要なイスの購入や校舎内の照明のLED化等、引き続き、予算修繕要望をお願いしたい。 事故防止(安全管理及び事務処理)によく配慮されている。 	(1)清掃マニュアルや危機管理マニュアル等の各種マニュアルを作成することで各業務において組織的な取組を行うことができた。また、避難訓練や防災教育を通して、災害時に必要な行動や物資について確認することができた。今後、必要な物品の購入と古くなった清掃用具や防災用品の処分や入替が課題である。 (2)ICT活用により、学校行事等に参加しやすい環境をつくることができたが、技術面やインフラ面で課題が残っている。	(1)各種マニュアルについては今後も必要に応じて見直しや修正を行っていく。物品管理については数年先を見越して、購入計画と処分計画を立てていく。 (2)今後もICTを積極的に活用し、学校・保護者・地域の距離を縮めていく。参加しやすく、利用しやすいシステムの積極的な導入やその研修会を開催していく。